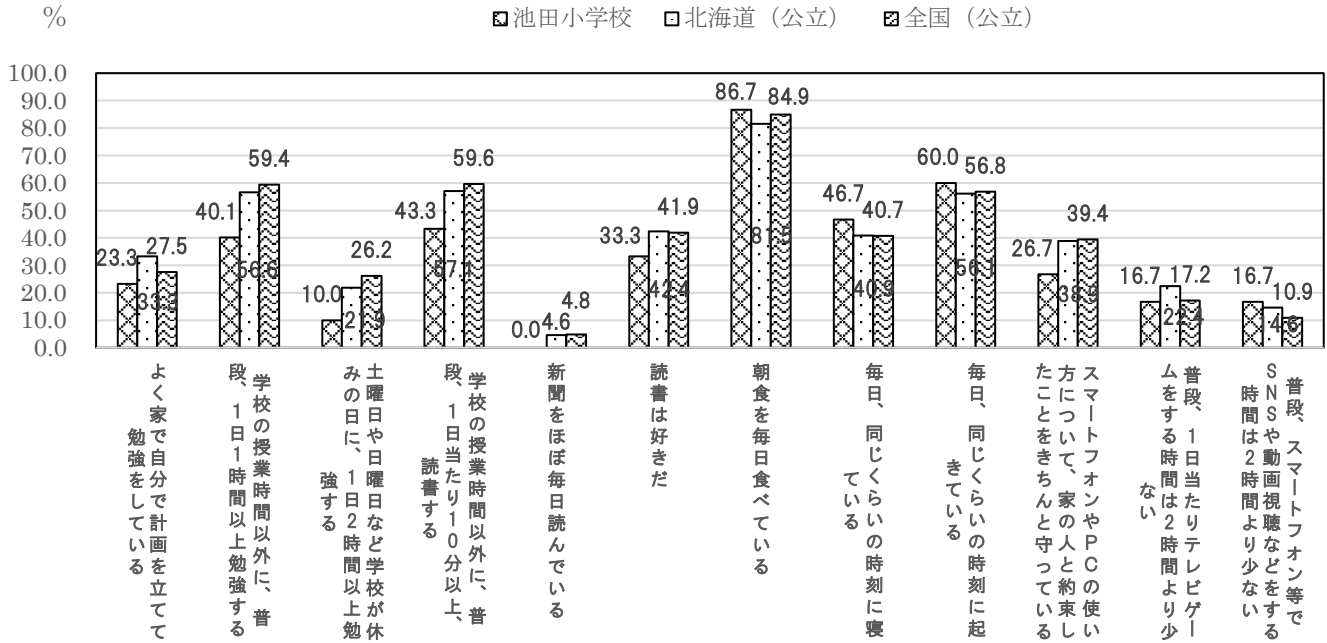


<学習状況調査の傾向（小学校）>

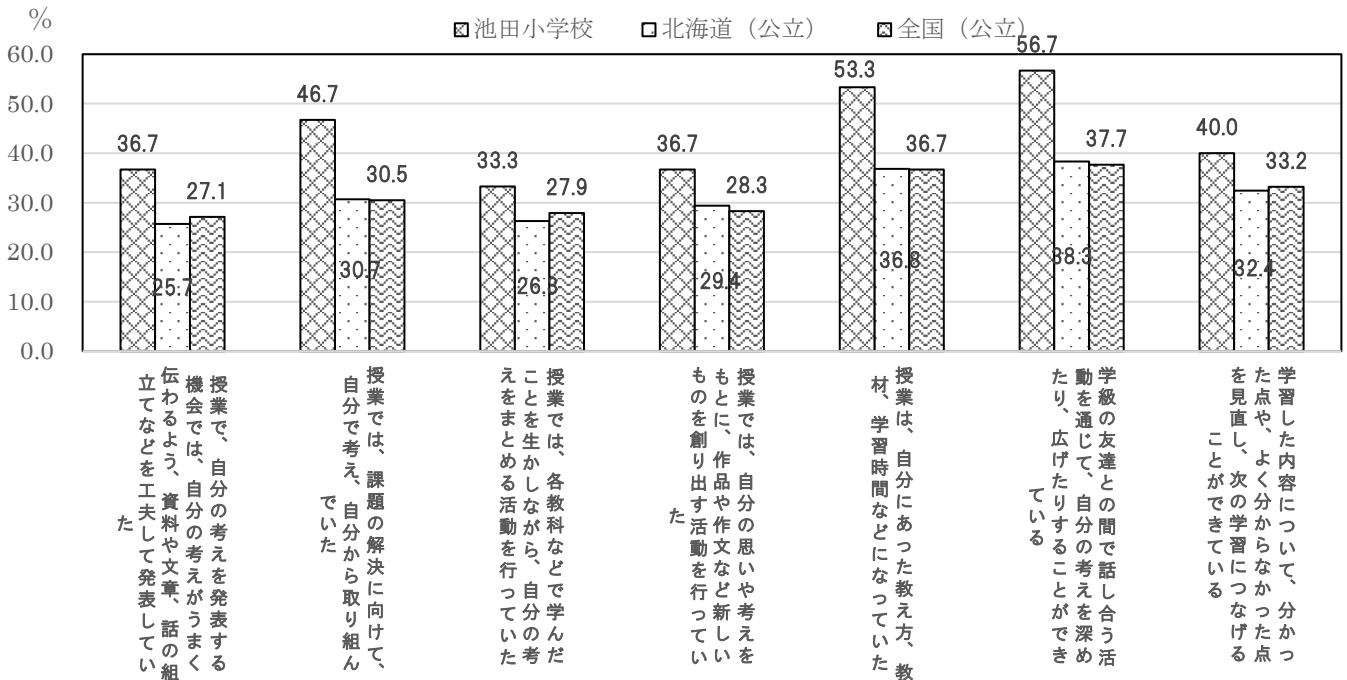
1 「学習・生活習慣」について

学習習慣、生活習慣



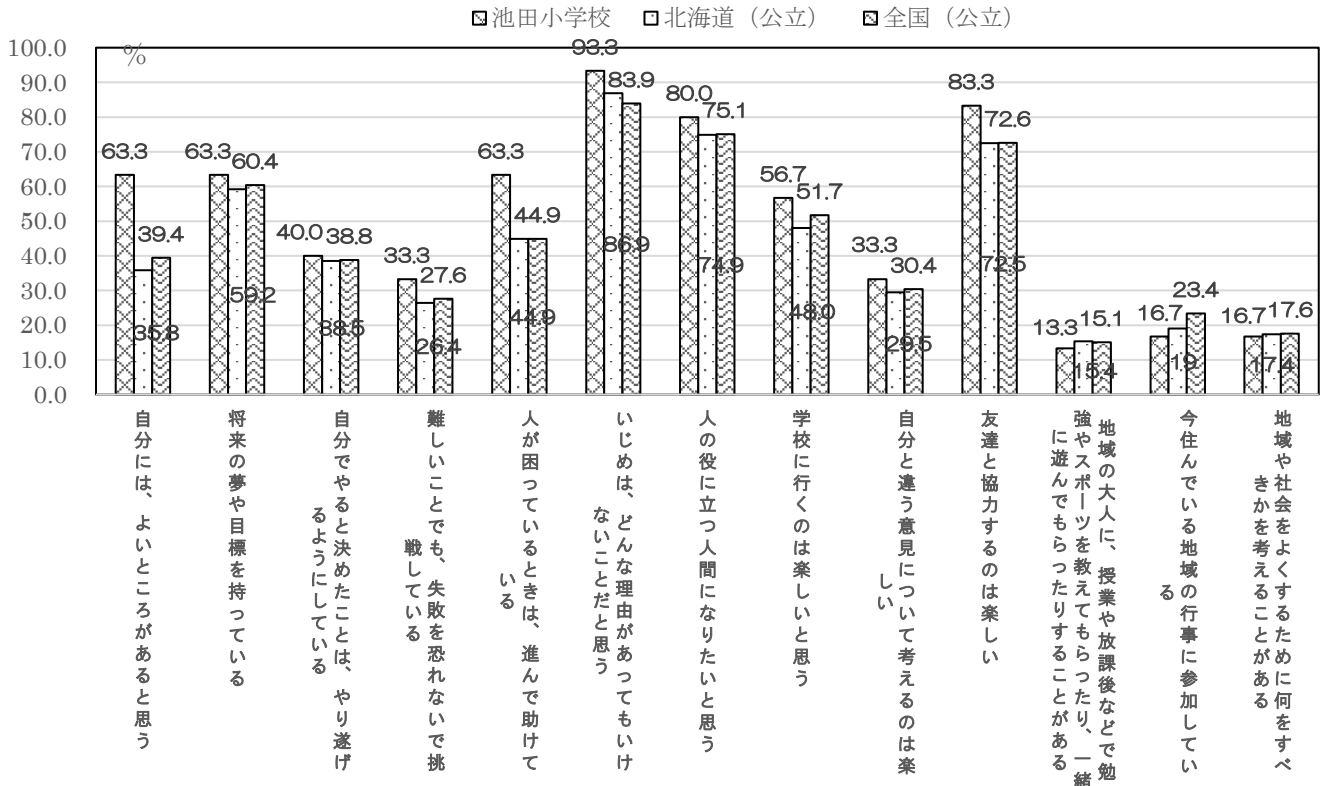
2 「学習意欲等（主体的・対話的・深い学び）」について

学習意欲等（主体的・対話的・深い学び）



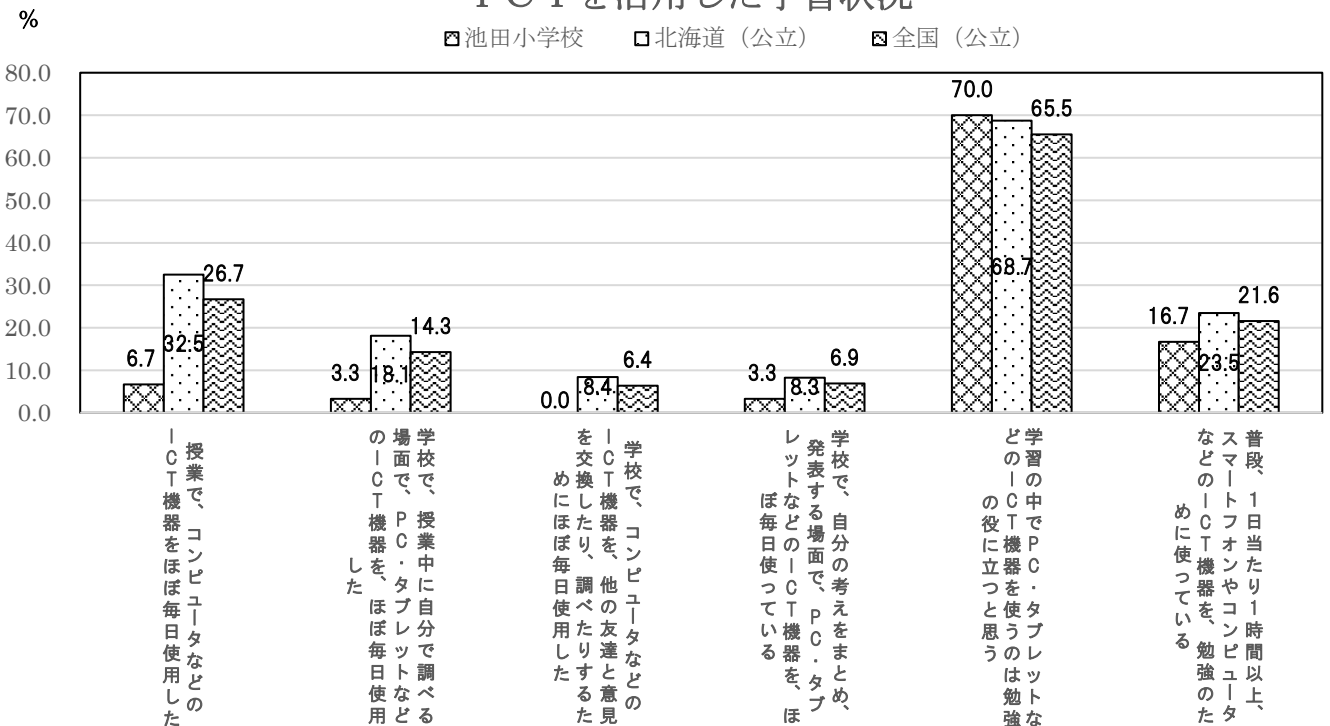
3 「自尊・規範意識、地域社会等」について

自尊・規範意識、地域社会等



4 「ICTを活用した学習状況」について

ICTを活用した学習状況



5 考察

「学習・生活習慣」では、「毎日同じくらいの時刻に寝る」、「毎日同じくらいの時刻に起きる」、「朝食を毎日食べている」などについては全国よりも望ましい傾向にあり、基本的な生活習慣の定着が図られている。一方、「スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている」、「学校の授業時間以外や休みの日に、1日1時間以上勉強する」、「普段1日10分以上読書する」などについては全国より低い傾向となっている。家庭との連携・協働、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組など、家庭学習や読書習慣の確立に向けた多角的な取組が必要である。

「学習意欲等」では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」、「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」など、すべての項目について全国よりも上回っている。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、児童の学習への意欲が望ましい傾向となっている。引き続き、授業改善の取組を継続するとともに、取組に対して適切な評価・改善を組織的に行うことが必要である。

「自尊・規範意識、地域社会等」では、「自分にはよいところがある」、「人が困っている時は進んで助けている」、「友達と協力するのは楽しい」をはじめ、自尊・規範意識の項目はすべてについて全国よりも上回っており、望ましい傾向にある。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童の割合は93.3%で全国よりも9.4ポイント上回っている。引き続き、「認め合い・支え合う仲間づくり」の指導を通して、いじめ防止の意識を高めていくことが必要である。地域との関わりについては、すべての項目において、全国よりやや低い傾向となっている。

「ICTを活用した学習状況」では、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」の項目は全国よりも上回っており、ICT機器の効果的活用が学びの有効な手段として認識されていることが伺える。「ICT機器の毎日の活用頻度」については、該当する項目についてすべて全国よりも下回っており、「個別最適化された学び」の実現に向け、より一層授業の中でICT機器を効果的に活用することが必要である。